

令和 5 年度 瑞穂野中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

人間尊重の精神を基盤に，豊かな心と個性をもち，自主性・創造性を発揮して，たくましく生きる人間を育成する。

(2) 具体目標（具体的な生徒像）

- 心身ともに健康で，気力あふれる生徒（強く）
- 自ら学び，創造性に富む生徒（賢く）
- 思いやりがあり，心豊かな生徒（明るく）
- 地域や世界に関心を持ち，未来を拓く生徒（拓く）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

人権や生命尊重を基盤に知育・徳育・体育のバランスのとれた教育活動の実施と学校目標の「強く・賢く・明るく・拓く」の各姿を諸活動に位置付けた特色ある学校づくりを推進する。

生徒は，学習や生活，行事や部活動等に目的や目標をもって取り組む中で，自己を振り返りながら，将来の夢や目標に向かって粘り強くたくましく生きるために必要な資質・能力を身に付ける。教職員は，自己に与えられた使命を自覚し，自己研鑽に励み，生徒，保護者，地域から信頼される学校づくりに努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

スローガン つながる 優しさ 思いやり

(1) 夢や目標の実現に向けて，安心して学ぶことのできる居場所のある学校づくり（強く）

- ・心身ともに健康で，自分のよさを発揮し，誰もが安心して学べる活力ある学校。
- ・教職員が協力して業務に取り組み，よりよい教育環境に配慮した安全で快適な学校。

(2) 生涯学び続けることのできる資質・能力を身に付けられる学校づくり（賢く）

- ・指導と評価の一体化を図る多面的・多角的な業務の明確化と効率化の推進。
- ・情報を活用する力と課題を解決する力の育成に向け，自分で考え判断する場の設定。

(3) 自信や自己肯定感を高め，思いやりがあり豊かな心を育む学校づくり。（明るく）

- ・一人一人を大切に，多様な生徒の状況の理解に基づいた適切な支援と指導。
- ・豊かな体験や人と関わり合いを通して，優しさや思いやりにあふれる生徒の育成。

(4) 地域の良さを知り，自分の良さを生かして未来につながる持続可能な学校づくり。（拓く）

- ・宇都宮学，キャリア教育，環境教育，国際理解教育，主権者教育，安全教育等の充実。
- ・地域人材や物的資源を有効に活用し，地域の未来を考え地域とともに歩む学校の推進。

【瑞穂野地域学校園教育ビジョン】

9年間の連続した学びの中で，生きる力（確かな学力，健やかな体，豊かな人間性・社会性）を育てる小中一貫教育
—言語能力を身に付け，他者と関わり合いながら，たくましく成長する児童・生徒の育成—

◎最重点目標：学習基盤となる態度や学習習慣の育成と基礎的な言語能力の向上

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

教育基本法及び学校教育法その他の法令並びに学習指導要領の示すところに従い、本校教育目標の具現化を目指し、生徒の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成する。

(2) 留意点

- ・教育課程に基づいた組織的・計画的な教育活動の実施により、知徳体のバランスのとれた育成を図り、学習の基盤となる資質・能力を身に付けさせるとともに、学びの質の向上に努める。特に、言語能力については1人1台端末の活用や話し合い活動を充実させる。
- ・現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力については、各教科、特別活動、総合的な学習の時間において、見方・考え方を働かせながら、人権教育、情報教育、国際理解教育、環境教育、主権者教育等の関連を適切に配置する。
- ・小中一貫教育の取組の下で、地域住民等と連携及び協力をしながら教育活動を行う。
- ・保護者や地域の声を、学校評価等を通して把握し、教育課程の改善に生かす。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- ・「つながる 優しさ 思いやり」をスローガンに、学校目標の具体的な姿を諸活動における目標としながら、指導と評価の一体化を図った特色ある学校づくりを推進する。
- ・校務のデジタル化や業務改善による効率化や簡略化を進め、教職員が心身ともに健康な状態で職務に取り組めることができるよう教職員管理と組織管理に配慮する。
- ・「生きる力」を育む知育・徳育・体育のバランスのとれた教育活動の実施と教科等横断的な視点に立った資質・能力（学習の基盤・現代的な諸課題）の育成に向け、全職員が取り組むべき課題として共通認識し、課題の解決に組織的・計画的に取り組む。
- ・他者と関わり合いながら言語能力を身に付ける場面において、生徒の主体的な活動を促すとともに、認め励ます指導を充実させ、粘り強くたくましく成長する生徒の育成を目指す。
- ・「子ども基本法」の理解に基づいた一人一人を大切にする教育活動の充実を図る。
- ・「特別の教科 道徳」を柱に、自己肯定感や自己有用感、生命や人権を尊重する心を育む。
- ・不登校対策の充実と不登校生徒の自立に向けた対応に努めるとともに、いじめを生まない指導・支援の充実といじめをしない態度や能力の育成を図る。
- ・デジタル・シティズンシップの考え方を基に、生徒の情報収集・活用能力を育成し、学習や生活の場面において自分で考え、行動できる指導の充実を図る。

(2) 学習指導

- ・学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）の育成。
- ・指導と評価の一体化を目指した指導計画・評価計画の見直しと構築。
- ・「宇都宮モデル」（はっきり、じっくり、すっきり）の各過程の質的向上。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現と1人1台端末を活用した授業改善と効率化。
- ・課題の提示や展開の仕方などに、特別支援教育の視点を取り入れた指導の充実。
- ・特色ある学校づくりと関連した人権、環境、主権者、安全等の計画的位置付けと指導。
- ・学力調査結果の分析に基づいた課題を組織的に解決するPDCAサイクルの確立。

(3) 児童生徒指導

- ・不登校対策といじめを生まない指導・支援の組織的な対応。
- ・規範意識の育成と基本的な生活習慣の確立。
- ・教育相談の充実と校内適応支援教室の適切な運営。
- ・SC, MS, 関係諸機関との連携による情報共有。
- ・デジタル・シティズンシップを基盤としたSNSトラブルの未然防止と対応。
- ・宮っ子心の教育の推進による自己肯定感のもてる学校づくり。(学年賞)

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

- ・元気アップ教育に基づいた健康教育の充実と望ましい生活習慣の確立。
- ・元気っ子健康体力チェック、定期健康診断結果等の結果の有効活用。
- ・体力向上を目指した体育的活動の推進。(体力向上)
- ・デジタル活用時における健康面への配慮に関する教育。(保健教育)

- ・食事マナーの指導と「宇都宮学」と関連した食文化の学習の充実。（食に関する指導）
- ・安全教育の充実と危機予測・回避能力の育成。（安全教育）

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1－（１） 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私（生徒）は，学習課題を解決するために，友達と話し合ったり，必要な情報を集めたりしながら，じっくり考え，粘り強く学習に取り組んでいる。」⇒ 生徒・教職員の肯定的回答 90%以上	・主体的・対話的で深い学びの実現を目指し，教師が授業のねらいを明確にするとともに，生徒がじっくり考え粘り強く学習に取り組む場面を設ける。 ・生徒の情報収集・活用能力の育成を図るために，各教科の授業の中で，グループ学習や生徒同士が対話を通した情報交換の場を積極的に設ける。 ・家庭学習の指導や AI 学習ドリルの活用などを通じて，家庭学習の習慣の定着を促す。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 93.0%、教職員の肯定的回答は 96.9%であり、どちらの指標においても数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒一人一人が、学習課題を解決するための情報収集および活用する能力を育成し、粘り強く学習に取り組める環境をグループ学習や生徒同士の対話をする場面を設定するなどして整える。
1－（２） 豊かな心を育む教育の推進	A 2 生徒は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「私（生徒）は，誰に対しても，思いやりの心をもって優しく接している。」⇒ 生徒・教職員の肯定的回答 90%以上	・日常の学校生活や多面的・多角的に考え，議論する工夫した道徳の授業を通して，自分なりの考えを伝えあうことができる。 ・認め合える学級の雰囲気をつくり，思いやりの心を育てる。 ・行事での振り返りや帰りの会等で思いやりのある行動をとった生徒等の事例を紹介，称賛することで啓発していく。	B	【達成状況】 ・生徒・教職員の肯定的回答はいずれも 93.8%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・道徳の授業の中で自分なりの考えを伝えあうことや行事の振り返りの活動等を通して、お互いを認め合える雰囲気を醸成する。
	A 3 生徒は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。」⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	・学級活動では，自己の生き方を考えさせるとともに，目標に向かって日々努力することや諦めずに粘り強く学習や運動に励み続けることの大切さを指導していく。 ・自己実現可能な目標を見出させ，達成感を味わわせる学校行事を通し，目標に向かって粘り強く取り組む力を高める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 87.3%であり、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・学習面・生活面ともに、生徒一人一人の目標達成のために、あきらめずに粘り強く学習や運動に取り組むことができるように目標達成状況を教室に掲示し、視覚化・明確化するなど、指導を継続する。

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	・授業での活動を通して、健康や安全についての意識を高め、交通安全教室や避難訓練、生活安全委員会の活動を促す。 ・毎月、保健委員会が衛生検査を実施し、健康面への配慮を促す。 ・定期的な登下校指導、安全点検等を通して安全に生活できる環境作りに努める。 ・毎日の昼の放送において、献立の栄養成分を確認することで、バランスよく食事をするように意識を高める活動を促す。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 93.3%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒自ら問題点を見だし、健康や安全についての課題意識を高め、生活の改善行動につなげるために各委員会での活動を充実させる。
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りとの協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上	・さまざまな活動の場面（MBS、帰りの会の振り返り）で、日ごろの良い行いをしている生徒を認める活動を行う。 ・グループ活動を通して、お互いの意見を認め合う取組を支援する。 ・学校行事などの活動を通じて、協力して活動することの大切さを実感できるように支援する。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 89.7%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・学級活動や学校行事等の活動を通じて、周囲と協力したり、生活をよりよくしたりする意識を高める活動につなげる。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、英語の授業や ALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	・英語の授業に ALT を積極的に活用し、言語活動の充実を図る。 ・授業中はもとより休み時間においても ALT と英語でコミュニケーションをとるよう促していく。 ・インタビューテストなどで生徒が積極的に英語を用いて活動できる時間を増やしていく。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 80.1%であり、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・生徒が英語を使い、コミュニケーション活動を多く行えるよう、授業内容を工夫すると共に、生徒会の行事等でも英語に親しむ機会を設ける。
	A 7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上 全体アンケート「生徒は、宇都宮の良さを知っている。」⇒ 保護者の肯定的回答 85%以上	○総合的な学習の時間での「宇都宮学」で、宇都宮の良さを学ぶ探究活動の充実を図る。 ○地域の行事への参加を促し、宇都宮の良さをを知る機会を増やすとともに各種たよりやホームページを通じて保護者にも取組の様子を伝える。 ・地産地消の食材や郷土食、宮っ子ランチを教材として取り入れ、郷土への理解を深めさせる。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答 91.7%で数値目標に達したが、保護者の肯定的回答は 79.4%となり、数値目標には達しなかった。ただ、昨年度から比較すると 70.6%⇒79.4%と 8.8%数値が上昇している。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間での宇都宮学を教育課程上で年度の早期に位置づけ、授業参観等で保護者に周知を図る。また、地域行事に参加することで、宇都宮や地域の良さを知る機会を増やすよう工夫する。

2ー(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A8 生徒は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、パソ コンや図書等を学習に活用し ている。」⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	・情報教育や総合的な学習の時間 における調べ学習等で、ICT 機器の基 本的な操作や有効に活用する技能、図書等 を活用する力を育成する。 ・各教科の授業の中で、chromebook を積極的に活用する。 ・授業等を通して、アプリを活用する ために必要な基礎的な知識や技能を 身に付けさせる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 86.8%で、数値目 標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・多くの授業で chromebook を使用する ことで、生徒が自発的に学習のツールと して活用できる環境を作るとともに、学 校教育活動を通して、学校図書館の利用 を推進する。
2ー(3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A9 生徒は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、「持 続可能な社会」について、関心 をもっている。」⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	・生徒会活動を中心に「持続可能な社 会」の実現に向かう具体的な取組を考 えて実行に移したり、話題の提供や啓 発に関わったりする機会を設ける。 ・社会科、技術・家庭科、理科、総合 的な学習の時間の授業の中で、「持 続可能な社会」などについて、話し合 い活動を取り入れることで関心をもた せる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 86.3%で、数値目 標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・学校生活で「持続可能な社会」の実 現のための取組を行えるよう、授業や特 別活動の内容における話し合い活動や話 題の提供や啓発の仕方などを工夫する。
3ー(1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援 を必要とする生徒の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、 特別な支援を必要とする生徒 の実態に応じて、適切な支援 をしている。」⇒ 教職員の肯定的回答 100%	・特別な支援を必要とする生徒につ いて、個々の実情に合った支援計画を 作成したり、ケース会議を実施したり し、年間を通して適切な支援ができ るようにする。 ・校内支援委員会や教育相談委員会 を定期的に開催し、情報交換を行う。 ・SC の支援を積極的に取り入れる。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 96.9%であり、 数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・適切な支援を行うため、個別の支援計 画の内容を充実させる。また、年間を通 して有効に活用できるよう職員会議等 で教職員の共通理解を図るとともに、校 内支援委員会で見直しを行う。
3ー(2) いじめ・不 登校対策の 充実	A11 教職員は、いじめが許 されない行為であることを 指導している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、い じめ対策に熱心に取り組んで いる。」⇒ 教職員の肯定的回答 100%	・学級担任は、いじめは絶対に許さな い毅然とした姿勢で学級経営を行う。 ・生徒会が中心となっていく「いじめ ゼロ集会」を通して、「いじめをしな い・させない・見逃さない」という意 識を持たせる指導を行い、いじめの未 然防止に努める。 ・「いじめアンケート」では、いやな思 いを持っている生徒については迅速に 対応し、早期解決に努める。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 96.9%であり、 数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・人権に関する学校行事等の取組を通 じて、教職員の共通理解を図り、学校全 体でいじめを許さない指導を実践して いく。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、生徒がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」⇒ 生徒の肯定的回答 95%以上 全体アンケート「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の生徒を大切にし、生徒がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」⇒ 教職員の肯定的回答 95%以上	・生徒の話を丁寧に聞き、気になる生徒にはこまめに声掛けを行う。また、保護者との連携を欠かさないようにする。 ・SCやMSと情報を共有するとともに、市教育センター等関係機関との連携しながら指導していく。 ・教育相談委員会を開催し、情報交換及び支援策の検討を行い、共通理解のもと家庭と連携を図り支援していく。 ・校内適応支援教室の充実と、全職員による生徒への支援を行う。 ・帰りの会や清掃の反省会などで頑張っている生徒を称賛する活動を行う。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%で、生徒の肯定的回答は97.2%で、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒一人一人の良さが生きやすい学級経営のために、QU検査や定期的な教育相談等で生徒の状況を把握し、教育相談部委員会や家庭・各機関と連携を図って迅速に対応する。
3-(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	・学級経営や教育相談を充実させ、生徒に寄り添った関係作りに努める。 ・生徒一人一人が安心して活躍できたり、必要とされていることを感じられたりする関係作りを図る。 ・生徒自身が問題解決に取り組む中で、QUの活用や生徒の困り感への対応といった支援を行うことで、生徒の自己肯定感を高める。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は95.6%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・一人一人の生徒の心に寄り添うことを意識して、学級経営や教育相談にあたる。 ・生徒の主体性を大切にしたい生徒会の運営を継続して進める。 ・学校・学年行事等で一人一人が活躍する場面を増やせるように努める。
3-(4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化			
4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	・宇都宮モデルを基に、「ねらい」「学び合い」「まとめ」「振り返り」を学習活動に適切に位置付け、「分かる・できる授業」づくりに努める。 ・「一人一授業」公開を実施し、教員の授業力向上を図る。 ・習熟度別学習やT・Tなど指導方法を工夫し、個に応じたきめ細かい指導を行い、基礎的・基本的内容の定着に努める。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は94.1%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・職員研修やミニ研究授業とその後のグループによる授業研究会の実施を通して職員の授業力向上に努める。 ・個に応じたきめ細やかな指導を習熟度別学習やT・Tを活用しながら行う。

4－(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」⇒ 教職員の肯定的回答 100%	・校長を中心とした「チーム学校」の考えのもと、ミドルリーダーを中心に、お互い協力し合いながら業務に取り組む職場環境を構築していく。 ・一人一人が「風通しの良い職場」を意識することで、情報の共有化を図るとともに協力しやすい雰囲気を作る。 ・SC、SSW、MS等と連携して課題の解決に取り組む。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・「チーム学校」の考えのもと、様々な学校課題に組織的に対応するとともに、情報の共有化を図り、協力し合いながら業務に取り組むなど、教職員の協働意識の向上に努める。
4－(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」⇒ 教職員の肯定的回答 80%以上	・管理職は教職員の出退勤時刻を把握し、時間外勤務の多い教職員に対して、個別に面談し、勤務時間の適正化を指導、助言していく。 ・みずほネットなど校務のデジタル化による業務の効率化、業務の精選、部活動方針の徹底など、教員の勤務時間の縮小に取り組む。 ・企画委員会や学年主任会、職員会議を活用して、学校行事の円滑な運営や計画的な学年経営を行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は96.3%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・リフレッシュデーを月1回設け、職員室前方ホワイトボードに掲示するとともに、事務の簡略化と業務内容の精選に努める。
5－(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」⇒ 保護者の肯定的回答 85%以上 全体アンケート「学校は、小学校と中学校の交流の場を作ったり、掲示物で互いの学校の情報を伝え合ったりする「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」⇒ 地域住民の肯定的回答 85%以上	○小中一貫教育推進主任を中心に、学校間の情報交換や交流・連携を推進するために、各部会の運営方針を明確にし、分科会活動の充実に努める。 ・学校ホームページや事務室前の掲示板に「地域学校園コーナー」を設置して情報を発信するなど、保護者・地域への啓発を行い、小中一貫教育への周知を図る。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は85.2%、地域住民が100%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・地域学校園だよりの発行、学校ホームページや地域学校園コーナーを充実させ、保護者への啓発及び小中一貫教育への周知を図る。

5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」⇒ 保護者・地域の肯定的回答 80%以上	○地域の蜚水会の協力を得ながら、ホタルの飼育を行っていく。 ○食農体験学習では、地域の農家の協力を得ながら、田植えからお米の収穫までの活動を行っていく。 ○社会体験学習を通して、地域の企業等と連携しながら、キャリア教育を進める。 ・保護者会等や学校ホームページで情報を発信し、保護者・地域との連携を図る。	A 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 90%、地域住民が 66.7%であり、保護者は数値目標に達したが、地域は 13.3%及ばなかった。 【次年度の方針】 ・家庭や地域社会と連携して、食農体験や蜚の飼育など瑞穂野の地域的特色を生かした教育活動を実践し、取組の様子や成果をより一層発信する。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」⇒ 教職員肯定的回答 95%以上	・安全点検を毎月確実に行い、修繕箇所を早めに修繕する。 ・教職員の危機管理意識を高めることで、危険な場所の早期発見と迅速な改善に努める。 ・整理整頓に努め、清掃が行き届いた校舎や体育館の維持、管理に努める。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 96.9%であり、数値目標に達した 【次年度の方針】 ・一人一人の教員が日頃から安全に対する意識を高め、安全点検を確実に行い、修繕箇所や危険な場所を早期発見し、迅速な改善に努める。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、授業（授業準備も含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している。」⇒ 教職員肯定的回答 100%	・教師が、Google Classroom やスクールタクトを各教科で登録し、生徒が授業中や宿題などの課題学習を行えるようにする。 ・職員間での端末の使用に関する情報共有を学年会議や教科部会を通して、積極的に行う。 ・学校ホームページやさくら連絡網を活用して保護者や地域に積極的に情報を発信する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 96.9%であり、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・職員間での端末に関する活用方法を学年会議や教科部会を利用しながら情報交換することで、職員一人一人がデジタルを活用できる機会を増やす。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「私（生徒）は、時と場に応じたあいさつをしている。」⇒ 生徒・保護者の肯定的回答 90%以上	○生徒があいさつしやすい環境をつくり、あいさつの大切さはもとより、あいさつの声が飛び交う明るい学校づくりの一員として行動させる。 ○生徒会執行部や生活安全委員があいさつ運動を行う。 ○授業前後のあいさつを丁寧に行う。 ○教師自ら、生徒に積極的にあいさつを行う。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 97.2%で数値目標に達したが、保護者の肯定的回答は 87.3%となり、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・時と場に応じたあいさつができるように、状況に応じて指導する。生徒主体のあいさつ運動や、地域学校園のあいさつ運動を充実させる。

B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「私(生徒)は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」⇒ 教職員・生徒の肯定的回答 90%以上	・生活安全委員会を中心に身だしなみ点検を行うなど、生徒が主体的にきまりを守るように促していく。 ・生徒指導委員会で示された方向について全教職員が共通理解を図り、同一步調で指導を行い、きまりやマナーを守るように支援する。 ・誤った言動をした生徒を見過ごさず、指導を適切に行うことにより、規範意識を高めていく。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 96.9%、生徒の肯定的回答は 96.6%であり、共に数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・きまりやマナーについて、教職員間の共通理解を図り、同一步調で指導に当たる。また、生徒会を中心とした取組を推進し、生徒自ら問題点や課題を見だし、改善していける主体的活動を支援する。
B3 教職員は、言語能力の育成を図るために、言語活動の充実に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、自分の考えをまとめて表現したり、説明したりする活動に取り組んでいる」⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上 全体アンケート「私は、言語能力を育成するため、考えをまとめて表現したり、説明したりする指導に取り組んでいる。」⇒ 教職員肯定的回答 90%以上	○教師が、話し合い・発表の場面において、生徒が考えを表現するための方法を事前に準備し、計画的に実施する。 ○教師が、振り返り活動において生徒が適切な言葉で表現したり、根拠をもって考えを述べたりできる環境を整える。 ○生徒が適切な言語活動を行っている時には称賛し評価をする。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 82.4%で数値目標に達しなかったが、教職員は 100.0%となり、数値目標には達した。 【次年度の方針】 ・生徒一人一人が、話し合い・発表の場面や振り返り活動の中で根拠をもって考えを述べ、考えを表現できる環境を整え支援する。
B4 学校は、生徒が意見を表明する機会の確保に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、学校生活の向上のため、生徒の意見を尊重し、学級活動や生徒会活動の指導に取り組んでいる。」 ⇒ 教職員肯定的回答 95%以上	○学級活動や学校行事等において生徒が話し合う機会を設け、生徒の意見を尊重しながら学級経営に取り組む。 ○生徒会活動をより活性化し、教師主導でなく、生徒の自主的・自発的活動を促す。 ○学校生活のきまりの見直しや生活環境の改善について、生徒の意見を取り入れながら、学校生活の質の向上を図る。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒が意見を述べたり話し合う機会を意図的・計画的に設け、より主体的に実践していく意欲を高める方策(実践方法・ふり返し)を工夫する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・宇都宮市の共通項目となる 22 項目（A1～A20, B1, 2）において、調査した全対象者（教職員・保護者・地域住民・生徒）から回答を得た全 63 項目のうち、肯定的回答の割合が 80%を上回った項目は 59 項目（全体の 93.6%）であった。市の平均を上回っている項目（同率含む）が 52 項目（全体の 82.5%）であることから、本校の教育活動が全体的に肯定的に受け止められていると捉えられる。

・教職員評価、保護者評価、地域住民評価、生徒評価（質問項目にないものは除く）の全てで市の平均を上回る（同率を含む）ことができた項目は、16 項目であった。昨年度の課題であった「B2—生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」については、市の平均を保護者評価が-1.4 ポイント下回っただけになり、あいさつへの意識が高まったと思われる。

・教職員評価では、市内共通 22 項目のうち、20 項目で市の平均を上回ることができた。特に高かった項目は、「A3—生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」（教職員評価 96.9%, 市平均より+10.3 ポイント）「A7—生徒は、宇都宮の良さを知っている」（教職員評価 96.9%, 市平均より+16.2 ポイント）「A9—生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている」（教職員評価 93.8%, 市平均より+20.6 ポイント）「A16—勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」（教職員評価 96.3%, 市平均より+19.7 ポイント）であった。しかし、「A10—教職員は、特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じて、適切な支援をしている」「A11—教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」がそれぞれ-0.1 ポイント、-2.1 ポイント市の平均を下回ったため、教職員の具体的な取組に対する意識の向上をさらに図っていく。

・保護者評価では、市内共通 15 項目のうち 11 項目が、市の平均を上回る結果となった。また、13 項目が 8 割を越えていることから、保護者は学校の教育活動に概ね理解を示しながら、学校と協力して生徒の教育にあたっていることがうかがえる。特に 9 割を超えた項目は、「A2—生徒は、思いやりの心をもっている」「A-18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」の 2 項目で、それぞれ 91.9%, 90%であった。

・地域住民の評価では市内共通 9 項目中、市の平均を上回った項目は 4 項目となり、その全てが 100%の肯定的回答となった。しかし、「A11—教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」の評価が 55.6%（昨年度の評価は 100%）、「A-18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」の評価が 66.7%と市の平均を大きく下回った。学校と地域との連携を深め、学校の教育活動への理解・協力を図りながら「地域とともにある学校づくり」を目指していきたい。また、いじめ根絶に向けた本校の取組を、ホームページや保護者会等を活用し、積極的に発信していく。

・児童生徒の評価では、市内共通 17 項目全てで市の平均を上回る結果となった。特に高かった項目は「A6—生徒は英語を使ってコミュニケーションをしている。」（生徒評価 80.1%, 市平均より+6.6 ポイント）「A7—生徒は宇都宮の良さを知っている。」（生徒評価 91.7%, 市平均より+9.2 ポイント）「A8—生徒はデジタル機器や図書等を学習に活用している。」（生徒評価 86.8.%, 市平均より+11.4 ポイント）「A9—生徒は、持続可能な社会について、関心をもっている」（生徒評価 86.3.%, 市平均より+7.1 ポイント）「A17—学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」（生徒評価 86.8%で市平均より+5.5 ポイント）であった。特に、A-17 は 2 年間 50%台と低かったが、あいさつ運動を協力して行ったり、HP で実践内容を掲載したり、事務室前に掲示板を作り活動報告等を掲示したりしたことにより、小中一貫教育・地域学校園の取組が認識されるようになった結果であると考ええる。

【学校運営部会】

○地域と連携・協働した学校づくりの推進については、地域住民の肯定的回答が低かった。コロナ 5 類移行により学校行事がコロナ禍前に戻りつつある中、地域と連携した教育活動の充実など学校に対する期待が高まっているものと思われる。食農体験、蛍の飼育、図書や生花など、地域の方々によるボランティア活動が定着しているので、取組を積極的に発信し、今後も学校と地域の連携の中で、心豊かな生徒の育成に努めていく。

・学校における働き方改革の推進について、教職員の肯定的回答が上がっており、教職員の意識が改善されてきていることがうかがえる。今後も、事務の簡略化と業務内容の精選に努め、教職員の業務の改善を推進していく。

・学校経営方針を全職員が理解し、各分掌の主任・主事等がリーダーシップをとって組織的な企画・運営を推進することで、教職員の学校経営への参画意識を高めていく。

【生徒支援部会】

○スマートフォンによるトラブルが見られるため、情報モラルの向上を図るため、小中で連携した取組が行えるように、共通理解を図ることができた。

・生徒主体の「いじめ撲滅活動」（いじめゼロ集会やピンクシャツデー）、「あいさつ運動」（生徒会執行部、委員会、部活動など）、「身だしなみ検査」（生徒自ら意識する取り組み）など活発に行われ、それらを適切に支援したことで、生徒の

主体的な活動につながった。

- ・支援が必要な生徒に対し、管理職も含めたケース会議や各種相談委員会を開催することで、組織を生かし全校体制で取り組むことができた。
- ・きまりやマナーの改善するための委員会での取組や生徒自ら現在のきまりについて議論するなど、学校生活をよりよくしようとする取組が見られ、それらを適切に支援したことで、生徒の主体的な活動が見られた。

【学習指導部会】

- ・総合的な学習の時間での「宇都宮学」を教育課程上で年度の早期に位置づけたことによって、宇都宮の良さを学ぶ探究活動を充実させることができ、生徒の肯定的回答が数値指標を達成した。
 - ・「宇都宮モデル」を基に職員研修やミニ研究授業および授業研究会の実施を通して、教職員が生徒一人一人に対して、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組む活動を充実させることができた。
- 教職員は、言語活動の充実を図る指導に取り組んでいるが、生徒自身は活動しているという意識が低いので、生徒が適切な言語活動を行っているときは称賛し、評価することで生徒自身にも意識をさせるようにする。

7 学校関係者評価

- ・地域の方々の母数が少ないので、どうやって母数を増やしていくかが今後の課題である。地域住民が学校になじめる機会があるといいのではないだろうか。
- ・教職員の方々の肯定的な回答が多いということは、学校で頑張っており、学校で頑張っていることが地域の方々に伝わっていないのではないだろうか。アピールをもっとしてはいいかでしょう。
- ・A16「教職員が勤務時間を意識して業務の効率化に取り組んでいる」の肯定的回答が高いのは大変いいことである。教職員の環境が良くないと、子どもたちにいい環境を与えることができないので。
- ・生徒の授業態度が大変良い。英語での会話がよく行われていて、コミュニケーション能力が育っていると感じた。
- ・敬老会にボランティアに来ていただいて、司会などをお願いした。コロナ禍の前をお願いした時よりも、生徒の話方・理解力がアップしてきている。先生方の指導の成果だと思うので、今後お願いします。
- ・A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」の肯定的回答が地域住民との温度差がある。何かしら目にしている可能性があるかもしれないので、アンテナを高くしてみるといい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・全体アンケートでは、本校の教育活動や学校運営について肯定的に評価されていると捉えられるので、次年度も活動の見直しや工夫をしながら更なる充実を図っていきたい。
 - ・今年度は「つながる 優しさ 思いやり」のスローガンのもと、豊かな体験を通して、豊かな心を育てる教育に力を入れてきた。特に、道徳科の授業の中で思いやりについて考え、実践力を身に付けさせる教育活動を多く取り入れた。次年度はさらに推進していき、多くの場面で思いやりのあふれる学校づくりを行っていく。
 - ・ICTの計画的・効果的な活用による「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に努め、基礎・基本の確実な習得を行う。
 - ・自己肯定感や自己有用感を高めるために、生徒と教職員のよりよい人間関係を醸成するとともに、教育相談活動を充実させ、安全で安心な学校づくりを目指す。
 - ・働き方改革に向けて、行事の見直しや教職員の勤務時間の意識改革、及びリフレッシュデーの実施など、一人一人が業務改善に積極的に取り組む。
 - ・いじめ対策については、全教職員の共通理解、情報共有のもと、いじめ等の問題行動の未然防止や早期発見に努める。また、生徒会を中心とした「いじめゼロ集会」「人権集会」などの継続的な取組をさらに充実させ、今後も継続して取り組んでいきたい。いじめ対策について、保護者会、学年だよりなどを通じて周知・説明していく。
 - ・地域の方々に学校行事に参加していただく機会を増やし、学校と地域との連携を深めたり、各種ボランティア活動への生徒の主体的な参加を促したりして、生徒と地域の結びつきを深められるようにしていく。
 - ・社会がめまぐるしく変化していく中で、学校からの情報を積極的に発信し、保護者・地域住民・学校関係者等の多くの方々の協力を得ながら「チーム瑞穂野」を推進していく。
- 小中連携の取組として、地域学校園でのあいさつ運動を強化し、地域協議会と協力し、より一層の充実を目指す。また、ホームページや校舎内の掲示板で小中一貫の取組の活動内容の理解を深めていく。